

令和3年第1回香川県水産審議会 委員意見

(1) 報告事項 専門部会の開催状況について

- 協議事項、報告事項が順調に行われたことが確認できる。
- 部会としては、なかなか計画通りに事項が進まないが、それなりの評価はできる。

(2) 協議事項 香川県水産業基本計画の素案について

頁	御意見
	○特になし
7-9	○基本方針(1)については、当面の課題として積極的に取り組む施策である。 ○基本方針(2)については、重要であり、重点施策を目標設定して遂行していくよう願います。
12	○重点施策 1-①について ・魚類養殖業の長期的安定のため、生餌高騰対策助成の継続、持続的な養殖業(SGDs)を推進するため、水産エコラベルの認証取得や水産資源の持続的利用に配慮した生餌の選定などに対する取組みへの支援を図っていただきたい。
20	○重点施策 4-①について ・新規就業者の確保、育成の支援など、漁業者に対する支援はあるが、漁連や漁協共に人材、人員不足が目立つ状況になってきている。漁協に対しては、合併や強化の支援ばかりで、人材支援などはない。特に島しょ部において人材確保が難しい状況にある。合併や強化の前に、漁協の基盤がしっかりしないと、合併・強化も厳しい状況。
23	○重点施策 5-①について ・海流、流速、潮の流れの方向など、最新科学的データで、現在温暖化の状況が昔とどれほど違うかを調査していただきたい。
24	○重点施策 5-②について ・他県であるような、24時間自動水温計や自動栄養塩測定器などの設置を検討していただきたい。
27	○重点施策 6-②について ・一般船舶にルールやマナー指導と、資源保護についても指導していただきたい。また、漁協に所属しない漁業者にも同様の指導が特に必要と考える。 ・漁協に所属しないで自由漁業を営む漁業者は、漁獲実績報告書の提出義務がなく、漁協に所属する漁業者から苦情が出ていることから、漁獲成績報告書の提出の取り扱い等について考えていただきたい。

12	<p>○魚類養殖の支出を多く占めている餌代のコスト削減、また、地域に応じたマーケット・イン型養殖業への転換が必要とされているが、具体的な案はありますか？</p> <p>低価格で安定供給への取組への支援はどのように行うのでしょうか？</p>
17	<p>○「お魚まるごと一匹」での食育を行っているが、魚は大好きという子が多いものの、親がさばけない、調理方法も分からない、骨も多くて食べにくいと魚離れしている中、教室を開催した時は魚が嫌な子でも、皆で食べると食べられているのを見て、親を対象に教室を開催する回数を増やしてはどうか。ただ、コロナの影響で開催できていないのが残念である。</p> <p>○手軽にパックを開けたら食べられる（チンするだけの）ものが好まれ、消費者にも変化がみられるように思われます。</p> <p>○以前、保育所で教室を開催した際、先生方がさばき方を教えてほしいといった声があり、驚きました。</p>
20	<p>○各漁協女性部は、部員は高齢化し、部員数も減少しているが、ライフジャケット着用推進には、頑張ってまいりたいと思っています。</p>
21	<p>○JAの女性グループとの交流をぜひお願いしたい。各会でJA女性部の会長さんとご一緒する機会があるが、グループで会合を出来たらと互いに願っていました。女性の立場で地域を交えて活動を支援できたらと思っています。</p>
	<p>○ネット通販以外で、アフターコロナを踏まえた計画、対策などはあるのでしょうか？</p> <p>今回の新型コロナウイルス感染症拡大により、水産業界も多大な影響がありました。ワクチン接種で徐々に沈静化するかもしれませんが、同じようなことがいつ起きてもおかしくありません。次は影響が軽微になるような計画、対策が必要ではないでしょうか。</p>
	<p>○当計画で掲げる目標、施策の実現に向けて、漁業者、水産関係団体、市町等と相互に連携・協力することが肝要と考えます。</p>
13, 25	<p>○食の安全に関して消費者は敏感であるため、魚食を広めるためにも赤潮、貝毒等の監視体制について具体的に書いた方がよいのでは？</p> <p>19 ○昔と違い、現在は流通技術も格段にあがり、どんなところでも美味しい魚が手に入る。魚食を増やすためには、地道なようではあるが、料理教室の活動が長期的に継続される必要がある。沿岸部地域はもちろんだが、山間部といった地域でも積極的にそういった活動が必要と考える。料理も一般</p>

	<p>的なものから、郷土料理まで幅広く行ってはどうか。また、オンライン式のものは動画を県や市町のHP、SNSに残し、いつでもどこでも誰でも接することのできるようにしてはいかがか。</p>
3	<p>○最初に、香川県の水産業の現状と課題が完結にまとめられており、それを受けて、めざすべき方向と施策の展開が良くまとめられた計画になっていると感じました。</p> <p>○第1章について：本質的な事ではありませんが、『漁船漁業については・・・、カタクチイワシとイカナゴで生産量全体の約5割を占めており、その豊凶が大きく影響・・・』の文章の後に、『このため、資源を維持・回復させるために効果的な種苗放流を継続的に実施することや・・・』とあります。カタクチイワシとイカナゴは種苗放流している訳ではないので、『このため』はやめた方が良いのでは？</p>
7-9	<p>○第2章について：基本方針1『旬を楽しむ水産物の生産と消費の創出』に沿って、p9の『⑦積極的な情報発信』として、消費者にしっかりと旬の水産物が何かを情報提供する方法を検討して欲しい。可能であれば、基本計画のどこかに具体的に記述して欲しい。</p>
19	<p>○第3章について：『学校給食等における水産物の活用を促進するとともに・・・』について、新型コロナウイルス感染症が収束し、国の緊急支援制度がなくなっても、学校給食への県水産物の提供ができるよう予算確保をして欲しい。「学校給食に、食/年を活用」など、具体的な目標値を書き込む事は可能でしょうか？検討願います。</p>
28	<p>○施策の展開方向の中に『海面利用に関するルールやマナーの周知、漁業者が取り組む資源管理措置に対する遊漁者の理解促進など、漁業操業と遊漁の海面利用調整への取り組みを推進します』という文面がありますが、具体的な施策にも、全く同じ表現が出てきません（施策の展開方向と具体的施策が同じという事はないと思います）。具体的施策では、具体的に施策を設定して述べて下さい。</p> <p>補足</p> <p>○ブランドの「さぬき蛸」について言及されていないのは、本県が蛸の消費量が日本一であるので奇異に感じました。近年、不漁で話にはならないのでしょうか？</p> <p>○昨年70年ぶりに改正された漁業法と、この県の水産業基本計画との関係は？</p>

	<p>漁業法の改正で香川県の水産業にはどのような影響が予想され、それに対して県としてどう対応する方針なのか？取り立てて、この基本計画に盛り込むほどの影響もないのでしょうか？</p>
<p>3</p> <p>17</p> <p>19</p>	<p>○右下円グラフの「その他動植物（漁船）」が何を含むのかちょっと気になりましたので、元データを探してみました。その過程で出典の提示方法についていくつか気になることがありました。出典資料の「漁業生産統計調査」は、「海面」「内水面」の2つがあるようなので正式名称と発行年を明示いただき、できれば発行時点での最新版（少なくとも令和元年）に基づいて提示されるのがよろしいかと思えます。</p> <p>○「消費者の健康意識は高く、魚食に対する購入意欲はある一方で、」について、実施された意識調査等のデータや分析結果も別添でご提示いただけると議論の際に活用できるのではないかと思います。</p> <p>○「H27年以降、県民一人当たりの魚介類購入金額は減少傾向となり、魚離れが進んでいます」ことに対して、「過去5か年の平均値への回復をめざす」とありますが、この間、所得・総支出の変動や世帯構成人数の変化もあるかと思えますので、購入金額の「絶対値」を目標とされるだけでなく、家計支出に対する割合など、相対的な目標も同時に定めても良いように思います。</p> <p>○「魚食習慣を身に付けるためには、幼少時から水産物に親しむ機会をつくることが重要です」について</p> <p>現在、食育教室や料理教室については、主に、小学生以上の家庭を対象に実施されているとお聞きしていますが、(コロナ収束後は)幼稚園や子育て支援センター等のように、お子さんがより小さい家庭（や、できたら一人暮らしの大学生も）対象にしていればよいかと思っています。保護者が子育てを始めて間もない時期で、食育に対する意識も高かったり、育休中で時間があったり、幼稚園であれば時間的にも精神的にも余裕のある保護者も多いかと思えます。実際、家計の話の中で「(頭が良くなりそうだから)子供に魚を食べさせたいけれど、自分ではさばけないし、切り身は高いから、結局お肉を買う方が安い」という話は、支援センターでも聞いたことがあります。また、経済学的見地からは、教育投資は時期が早いほどリターンが大きくなりますので、さばき方等の情報だけでも早期に入手しておくことで魚食の普及につながる可能性は期待できるかと思えます。</p> <p>○過去の審議会で質問させていただいたことがありますが、水産業振興の観点や生産者側からの意見として、この審議会では魚の値段（流通価格）が下がっていることを問題視されていると思いますが、子育て中の消費者の立場か</p>

	<p>らは、魚食は奢侈財にあたるケースが多いと思われます。今回学校給食でブランド食材を提供されたのと同様に、行政の補助等で消費者価格を引き下げただけでなく、潜在的な需要の掘り起こしも期待できるのではないかと考えています。</p>
2-5	<p>○水産業の衰退が叫ばれる今日、漁業就業者数や経営体数は減少しているにもかかわらず、生産量や産出額が増加しているのは経営としては安定しているのか？</p> <p>○就業者数の減少はどの産業においても課題だが、若者が増えない？</p>
5, 10	<p>○ノリ養殖の不漁と海水質との関連が問題視されているが、SDGs との関連で資源の保持と環境への配慮が関連機関との連携でもっと研究されるべきではないか。</p>
19	<p>○食育・料理教室等の事業効果について、参加者からは後日、家庭での魚料理の献立が増えた（以前は、刺身をかってくるだけが、焼き魚、煮魚が並ぶ）との報告を受ける。調理方法を知らない。時間がかかると思っている人が多い。</p>
17-19	<p>○YouTuber はまゆうさんとの連携や若い漁業者からの育成などをして、若い消費者に関心を持ってもらう戦略を組織として考える必要があるのでは？</p>
	<p>○特に異論はない。</p> <p>○今後の水産業にかかわる問題は人的資源の継続的減退と資源のあり方・確保等々多岐にわたります。行政のできることに限るよう見え、人の力・知恵に期待と光明見いだせるといいですね。</p>
	<p>○計画された事項の内容や新たな取組みの進捗が適切に図られるよう期待し、我々も協力の必要がある。</p>
全般	<p>○（水産業が）年々衰退していく状況においては、あれもこれもと目標を設定しても達成や効果はなかなか感じられません。生産・販売・参加と3つのカテゴリーに絞り、集中的に取り組むことが重要であると考えます。SGDsなどは現在のトレンドではありますが、生産性に乏しく、ただちに行うような内容ではないと考えます。実のある計画こそが現状打開につながるのではないのでしょうか。</p>